

「まさか」ではなく、「いつか起きる」学校の危機。
危機管理力こそ経営者に必要な力!

学校は多くの子どもが生活し、日常的に様々な活動をしています。常に事故等の危機と隣り合わせにあり、いつ危機が発生してもおかしくありません。またその危機は、社会の変化や学校の状況に伴い、その種類や質も大きく変化しています。

経営者としての
校長の責任を自覚し、



逃げない!

ふしない!

嘘をつかない!

【可能性のある危機】

- ①不登校やいじめなど、生徒指導上の諸問題。
- ②学力低下、評価や未履修などの問題。
- ③教育活動中や登下校中の事故。
- ④学校施設・設備の瑕疵。
- ⑤飲酒運転、わいせつ行為などの不祥事。
- ⑥食中毒、感染症。
- ⑦地震や台風、火災などの災害。
- ⑧不審者侵入などの事件。
- ⑨教員の指導に対する批判。

※ほかにも様々な危機が予想されます。

【危機管理のプロセス】

- ①危険の予知・予測。
- ②未然防止のための危機管理体制の確立に向けた取組。
- ③危機発生時の対応。
- ④対応の評価と再発防止に向けた取組。
- ⑤信頼回復に向けた取組。

【リスクマネジメントとクライシスマネジメント】

○リスクマネジメント（予見・予防）

事件・事故の発生を極力未然に防ぐことを中心とした危機管理。（平常時の対応）

○クライシスマネジメント（回避・対応）

万が一、事件・事故が発生した場合に適切かつ迅速に対応し、被害を最小限に抑えること。
（危機状況での対応）

【危機管理のさしすせそ】①

- （さ）最悪を想定し、
- （し）慎重に、
- （す）すばやく、
- （せ）誠意をもって、
- （そ）組織的な対応を。

ポジションペーパー
の作成も必要です！

【危機管理のさしすせそ】②

- （さ）最初の対応を慎重に、かつ素早く的確に行う。
【初期対応の重要性】
- （し）指揮系統をはっきりさせる。
【校長を頂点とした組織対応】
- （す）推測で動かず正確な情報を得て、経過を記録する。
【情報収集と伝達】
- （せ）戦力と戦術にたける。
【首尾一貫した戦略と臨機応変の戦術】
- （そ）組織の役割を明確にする。
【一人一役・最後まで遂行】

※鳴門教育大学 阪根健二氏

【危機発生時の校長の心得】

- ※「学校経営15の方策」福岡県教育センター（ぎょうせい）より
- ①危機を招いた教職員をその場で叱らない。 ②個人の不幸事を組織ぐるみの不幸事にしない。
 - ③悪い情報はすぐに報告させる。 ④教育委員会に第一報する。
 - ⑤クライシス・コミュニケーションの実施。（迅速な意思決定と行動、徹底した情報開示）